

## 南アルプス市立櫛形中学校 学校関係者評価書

南アルプス市立櫛形中学校関係者評価委員会

令和3年1月27日(水)作成

学校関係者評価委員会

実施：令和3年1月（自己評価及びアンケート結果を文書にて提案し意見収集）

参加者：学校関係者評価委員

【学校評議員】 相原 千里 横小路淳一 渡邊 寿子 梅本 澄雄

河野木綿子 中込和彦 齊藤 彰

【PTA役員】 河野 亮（会長）

【学 校 側】 川崎将人（校長） 大久保 学（教頭） 鷹野 美香（教頭）

【学校関係者評価書】 《学校関係者評価委員の意見の集約》

### I 学校教育目標・学校経営について

- ・コロナ禍の中で教職員が何事にも一丸となって取り組み、それぞれの役割が明確になって、組織としても強くなってきたと思う。
- ・新型コロナウイルスの蔓延により、新しい生活様式を求められる中で、学習指導・生活指導において窮屈で消極的な指導を余儀なくされていると思う。・コロナ禍の中で、先生方には様々な負担がかかり、手探りの状況のもと大変な年だったと思う。
- ・学校長、教頭と教職員が一体となって、今日的課題に向かっている姿を見て感動している。精一杯立ち向かい、苦闘する教職員の苦労が伺われる。最も大切なのは、生徒を、どの子も受け止める教職員の健康、明るさ、豊かさである。
- ・先生方の負担や苦心、またコロナ禍の学校生活が、生徒にどのような影響を与えたのか、それが生徒の減少としてどのようなことが現れたのか、養護教諭をはじめ色々な立場の先生方の目を通して記録し、今後の教育を考えるうえで生かしてほしい。
- ・行事の縮小や実施の方法の変更など新たな取り組みが行われたはず。マイナス面やもしかしたら子供にとってはプラスのこともあったのではないか。
- ・私たちは生身の人間なので、常に健康を損なう心配がある。「心の健康」も「身体の健康」も表裏一体をなしているのだから、心身両面からの健康を考えていかなければならない。「チーム櫛中」として協働性を高め、学校をより一層柔軟で強靱な「組織」にしてほしい。
- ・人手・スタッフの数は重要。今後も支援スタッフ等が継続できることが必要。
- ・様々な行事が中止や規模縮小、変更など、大変な一年だった。その中で、先生方の様々な対応や努力はすばらしかった。先生方ができるかぎりのことをやろうとしていたことが伝わってきた。こんなにも頑張ってくださっていたのだから、自己評価は自信をもって「A」としていただきたい。

## II 学習指導について

- ・授業は「わかる」「楽しい」に「自ら学ぶ」課題を結び付け、自分の頭で考え、自分の言葉で、つたなくても発言する、を楡形中学校文化として「挨拶運動」とともに発展させてほしい。
- ・コロナ禍の中、生徒たちの「学校が楽しい」「くっしータイムが楽しい」「授業がわかる」等々の声（アンケート結果）に、先生方が相違工夫しながら指導されている様子が読み取れる。これからも感染防止に配慮し、集団生活としての良さを大切に「一流たる」生徒の育成に全力を尽くしてほしい。
- ・様々な制限がある中、教職員が試行錯誤しながらの授業だったと思う。「授業がわかる」のポイントが上がっていたことや「授業中に自分から発言や発表をするよう心掛けている」のポイントが大きく前進したことは、努力の結果だと思う。

## III 生徒指導について

- ・生徒指導においても、子供の声をきちんと聴いて、トラブルの解決にあたってほしい。トラブルの解決には、人間関係の修復を図ることを念頭においてほしい。
- ・いろいろな面で困難を抱えている生徒がいる。全教職員がその困難を共有理解して、一層の指導をお願いしたい。
- ・コロナ禍の中で家庭の暮らしと教育が一層困難になっていると思う。保護者が家にいる長所、短所といったことでは解決できない。保護者のいら立ち、不安などは一番弱い生徒にあてられることになる。今まで以上に、生徒の観察と支援が必要。

## IV 学校の特色に関わって

- ・街の中・公道でも楡中の子供たちの気持ちの良い挨拶が交わされている。挨拶をされると嬉しく勇気づけられる。
- ・スリンプルプログラムは、人の話を聴くこと、そこから相手を理解しようとする事、つまり人間関係を作ることに繋がる活動だと思う。今後も継続してほしい。

記載責任者：楡形中学校 学校関係者評価委員会  
事務局